

論文の内容の要旨

論文題目「情報技術（Information Technology）産業就労者における精神障害
の特徴」

学位申請者 高橋 有記

キーワード： 情報技術産業、過労死等、精神障害、セクシュアルハラスメント、自殺

【背景】

近年、過労死等が社会的に大きく注目されており、過労死等の主な要因である長時間労働（時間外労働）が、脳・心血管系疾患やうつ病などの精神障害、自殺などを惹起するとされている。過労死等と抑うつをはじめとした精神障害の研究や報告は少しずつ蓄積されているが、その背景が詳細に明らかにされているとは言い難い。また、日本における精神障害事案の労災請求件数は2012年以降、年々増加傾向にあり、過労死等の背景にある精神障害の特徴を把握し、防止対策を考えることは喫緊の課題である。

情報技術（Information Technology；以下、ITと略す）産業は、自動車運転業者、教職員、外食産業、医療、建設業、メディア業界などの業種とともに、過労死等が多発している業種とされている。これまでにIT産業に従事する労働者は、厳しい納期、顧客対応、そして急な仕様変更等の要因により、過重労働や過酷な労働環境におかれていると指摘されている。従って、IT産業就労者に求められる業務の過重負荷の軽減の見直しや改善、そして精神障害の予防・防止対策が喫緊の問題である。

本研究は、過労死等で労災認定された精神障害事案を対象に、IT産業就労者における過労死等、特に精神障害の実態や特徴を明らかにし、対策を考えるための基礎資料とすることを目的とした。

【方法】

方法としては、労働安全衛生総合研究所過労死等防止調査研究センターが構築したデータベース（精神障害・自殺案件238件、2010年～2018年の9年間）を用い、性別、発症時年齢、生死、職種、疾患名、労災認定要因および労働時間以外の負荷要因、時間外労働時間数等の情報に関する基礎集計を行った。

【結果】

精神障害・自殺総案件（238件）のうち、男性は178件（74.8%）、女性は60件（25.2%）で、経年変化では女性が増えている傾向にあった。年齢は30歳代の割合が79件（33.2%）と高かった。精神疾患名は、うつ病エピソードが150件（63.0%）と多かった。業務による心理的負荷では、「特別な出来事」の「極度の長時間労働」が37件（15.5%）、「恒常的な長時間労働」が65件（27.3%）であり、女性では「強姦等」が5件（8.3%）であった。「具体的出来事」は、「仕事の量・質」の種類のうち「仕事内容・仕事量の（大きな）変化を生じさせる出来事があった」が87件（36.6%）であった。一方で女性では「セクシュアルハ

ラスメント（以下、「セクハラ」と略す）」が 13 件（21.7%）であり、増加傾向であった。

【考察】

1. 長時間労働への対策について

分析結果から、IT 産業に従事する労働者の長時間労働への対策は大きな課題であり、その内容としては時間外労働時間の削減、そして労働時間の厳密な管理が重要と考えられる。そのためには労働基準法や労働安全衛生法の遵守とともに、長時間労働と関連する要因として考えられる負荷業務などの対策が必要である。これまでの報告でも、厳しい納期、顧客対応、急な仕様変更等が長時間労働の要因として示唆されている。そのため、発注者とも協議した上で、過重労働とならないように余裕のある納期を設定することや、業務の進捗状況を適切に把握し、急な仕様変更などによって業務量の増大が見込まれるときは納期の延長や増員などの措置を講じることが肝要である。加えて、システム開発者と依頼者が最初に行う設計のすり合わせの段階で、急な仕様変更が起こらないように仕様の妥当性の確認を行い、トラブル発生時はできる限り所定労働時間内に処理作業を実施することが必要であると考えられた。

2. 女性のセクハラ・強姦等への対策について

分析結果から、以下の内容が示唆された。まず若年層（特に 20 歳代）の女性就労者は、セクハラ・強姦等のリスクが非常に高く、さらに、500 人以上の大規模な労働者が働いている職場では、セクハラ・強姦等が多く発生する傾向があった。加えて加害者としては、圧倒的に上司や事業主など立場が上位の者が多く、実際に、職種としては業務上の立場関係（上下関係）が大きく影響すると考えられる営業職が多かった。また、セクハラ・強姦等の 2/3 以上は、勤務時間内に発生していた。

そのため、セクハラ・強姦等への対応としては、企業としてセクハラ・強姦等に対しては厳正に対処し、加害者には懲戒処分を行うなどの方針を明確に周知すること、そして、業務時間内だけではなく、業務時間外の就労者の交流には注視することが肝要であると考えられた。

【結論】

本研究の結果、過労死等防止対策推進法施行前後において分析されていなかった IT 産業における過労死等の実態と背景要因の一端が明らかとなった。IT 産業における精神障害においては、男女比は女性が 25.2%と年々女性の割合が増えていること、そして発症時年齢が 30～40 代と若年齢層が目立つことが明らかとなった。また、精神障害の要因としては男女ともに、仕事内容・仕事量の（大きな）変化が大きな要因であり、加えて連続勤務や時間外労働を含めた長時間労働や、部署及び勤務場所の変更による事案が多かった。加えて女性では、セクハラ・強姦等による事案が年々増加傾向であることが分かった。これらの結果から、IT 産業においては、長時間労働に関連する負荷業務などの対策及び環境変化に伴うメンタルヘルス対策とともに、女性のセクハラ対策の推進が喫緊の課題であると考えられる。